資料⑦

実験運行からの課題

（１）目標への評価

実験運行計画の方向性で示した３つの目標（資料④ P.1）を、実験運行の結果や利用者アンケートより評価します。

目標１．台地地区と平坦地区との往来を確保します。

・台地地区⇔平坦地区の移動は、ハートライフ普天間線では 321 人、第二久場琉大病院線では 432 人となり、合計 753 人の移動が見られました。

・アンケート結果より「村内を網羅しており、良いルートだと感じた」との意見が多くありました。

⇒台地地区と平坦地区との往来を確保できたと考えます。

目標２．公共交通が利用しにくい地域の利便性を高めます。

・公共交通空白地域（南浜、北浜、浜、新垣）や不便地域（登又、北上原）にあるバス停の乗降人数（資料④ P.10）をみると、利用の少ない地区もあるが、需要はあると考えられます。

・アンケート結果から移動手段の転換をみると、公共交通空白地域及び不便地域においても、家族の送迎からの転換が最も多く見られました。また、タクシーからの転換も多少見られました。

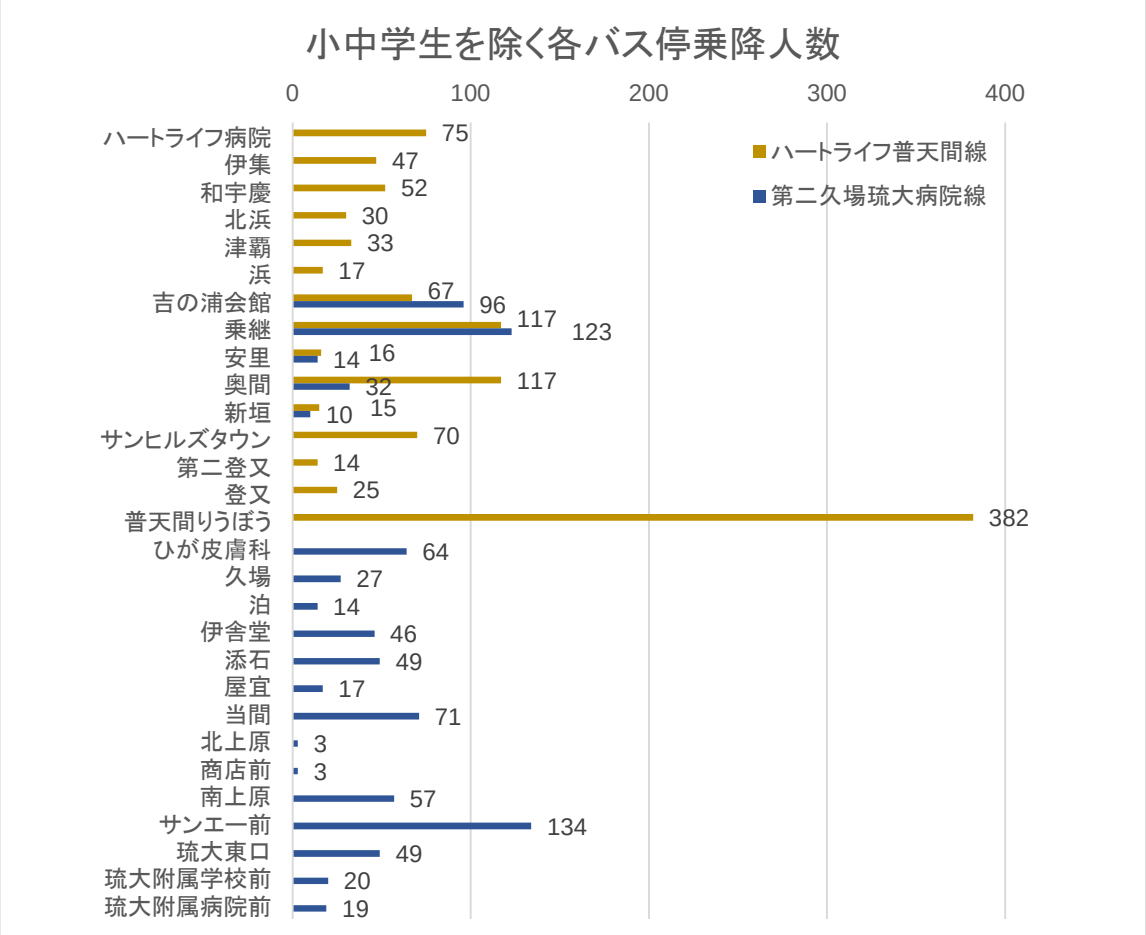
⇒公共交通が利用しにくい地域の利便性の向上が図れたと考えます。

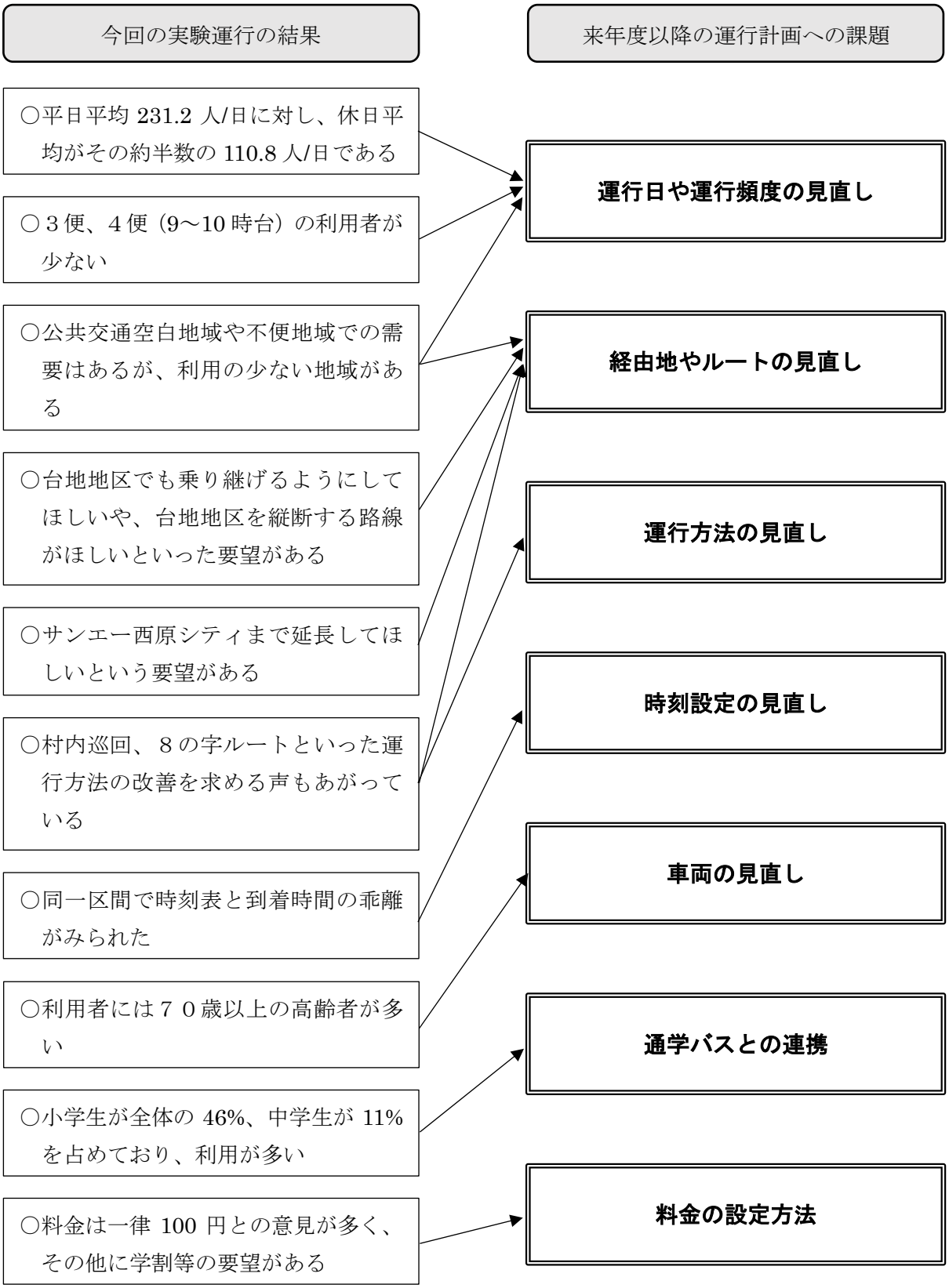
目標３．利用頻度が高い施設を経由しアクセス性を高めます。

・小中学生を除く各バス停乗降人数をみると、商業施設付近にある「普天間りうぼう」、「サンエー前」や公共施設付近にある「当間」、「吉の浦会館」での乗降が多くみられました。

・アンケート結果より、「行きたい場所へ行けるようになった、行きやすくなった」との意見が最も多く挙がっていました。

⇒利用頻度が高い施設へのアクセス性が高まったと考えます。



（２）来年度以降の運行計画に向けての課題整理

今回の実験運行の結果等より、来年度以降の運行計画への課題を整理します。